

WBGT（暑さ指数）計測について

2025年7月15日
公益財団法人日本陸上競技連盟

陸上競技におけるWBGT（暑さ指数）計測機器の適切な設置場所は、正確な暑熱リスク評価と選手の安全管理に直結する指標が得られる場所でなければならない

- ✓ **基本原則として、WBGT値は「人が活動する場所の環境負荷」を測る指標**
→ したがって、選手のいる場所に最も近い条件で測ることが大切

- ⚠ ・ WBGT計は地上1.5mの高さに設置（JSPO基準に準拠）
- ・ 直射日光を受ける環境で計測する（WBGTは熱ストレスの総和＝気温＋湿度＋輻射熱を測る）
※活動する場所が日陰環境の場合は活動場所（日陰）で計測する
- ・ 風通しがある場所のほうが、現実の「体感」に近い
- ・ 競技開始1時間前から競技終了まで30分毎（不可の場合は1時間毎）に計測する
- ・ 数値の安定には10分程度かかるため、三脚固定にして連続計測することが望ましい



京都電子工業（株）社製

陸上競技場でのWBGT計測：推奨設置場所

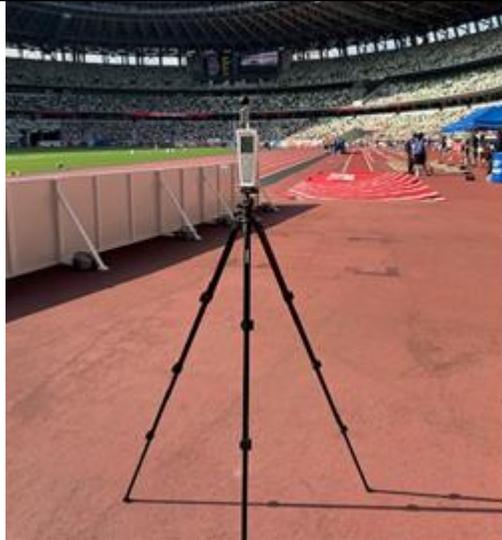
計測（設置）エリア	設置位置と理由
競技場内 (トラック・フィールド)	トラックあるいはフィールドの 日向側と日陰側 に設置する。 (芝の上ではなく、全天候型舗装路上（熱を受けやすい位置）に設置する) 選手が実際に競技する場所の輻射熱・照り返しの影響を把握する。
ウォームアップエリア	トラック内側と待機用テント内（日陰）に設置する。 直射日光が当たる時間帯が多く、選手が最も体温上昇しやすい場所とテント内の冷涼環境を把握する。
観客席（日向のスタンド）	一般観客の熱中症対策用モニタリング。必要に応じてWBGT値を掲示し注意喚起を行う。
日陰やクーリングエリア付近	これらの環境のWBGTを計測し、冷涼環境の確保と避難誘導エリアの科学的根拠とする。

※競技や活動の実施・継続を判断する際は「競技場内」および「ウォームアップエリア」の値を基準とする。
 ※環境省のHP等から、同時期・同地域の気象・暑熱環境（過去の実績や予報）を確認・把握しておくことも重要である（あくまでも目安）。

WBGT計は三脚固定にして、連続計測が望ましい（数値の安定には10分程度かかるため）



室内練習場



走幅跳ピット後方



1500mスタート内側



ホーム側スタンド前



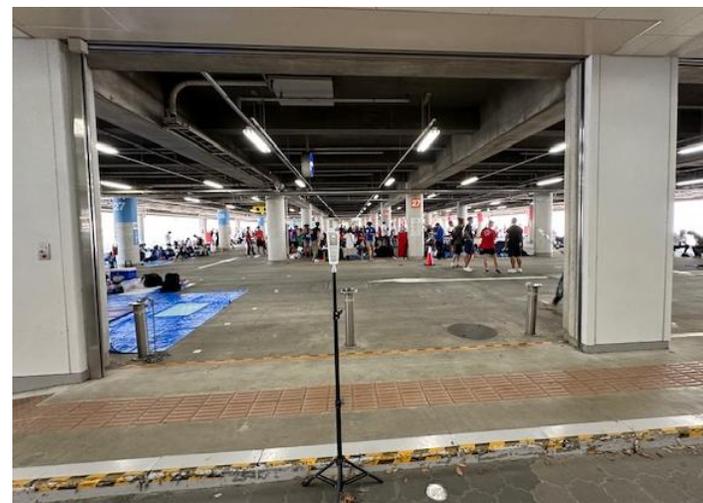
本部前



ホーム側走路内側



走高跳テント内



参加選手ベンチ前

WBGT計設置の事例（日本選手権（上）、日本選手権混成・リレー（下））³